

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(声優養成科(昼間部)2年制)

科目区分	授業科目	単位数	授業時間数	実務教員による授業	単位数	授業時間数	うちシラバス添付	単位数	授業時間数	備考
講義	表現	4	80							
実習		4	160							
講義	演技力	6	120							
実習		6	240							
講義	ボーカル実習	4	80	○	4	80				
実習		4	160							
講義	セリフ基礎	2	40							
実習		2	80							
講義	演劇概論	6	120							
実習	ナレーション	7	280							
講義	朗読劇	2	40							
実習		1	40							
実習	ムーブメント	1	40							
実習	ダンス	3	120							
講義	ファッションセンス	4	80							
講義	声優演技	2	40							
実習		2	80							
実習	アフレコ実習	3	120	○	3	120				
実習	吹き替え実習	3	120							
講義	オーディション実習	2	40							
実習		2	80							
講義	舞台演技	2	40							
実習		5	200							
講義	アフレコ・吹替	2	40							
実習		5	200							
講義	ナレーター	2	40							
実習		5	200							
講義	ボーカル	2	40							
実習		5	200							
講義	声優ビジネス	2	40							
実習		5	200							
総単位数/総授業時数		105	3,360		7	200		0	0	
卒業に必要な単位数/授業時数		77	2,400							

※ 2年次においては、舞台演技、アフレコ・吹替、ナレーター、ボーカル、声優ビジネスのどれかを選択し、履修するものとする。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現（2年次）	村國 守平・田村 連	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年生で学んだ表現を基礎とし、声優として、プロの役者として通用するような表現の知識を身に付けることを目標とする。			
【講義概要】			
台本を分解し解釈の方法を学び、読解力をつける。様々な文章を用い登場人物の感情の変化、会話の表現を考察していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）①		
2	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）②		
3	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）③		
4	自分の表現したい文章を各自選び考察 ①		
5	自分の表現したい文章を各自選び考察 ②		
6	自分の表現したい文章を各自選び考察 ③		
7	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）①		
8	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）②		
9	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）③		
10	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）④		
11	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）①		
12	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）②		
13	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）③		
14	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）④		
15	定期試験		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。定期試験・講義毎の理解度で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を中心に芝居作りの根底を理解させる。それぞれの人間の心情をより汲み取れる姿勢を養う。担当教員は声優や俳優、演出家として活動しているため、実務経験に基づいて声優の育成に向けた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	表現（2年次）	村國 守平・田村 連	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年生で学んだ表現を基礎とし、声優として、プロの役者として通用するような表現の技術を身に付けることを目標とする。			
【講義概要】			
台本を分解し解釈の方法を学び、実践する表現方法を学ぶ。1つの台本を深く読み解き登場人物の感情の変化、会話の描写を細かく表現していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ①		
2	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ②		
3	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ③		
4	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ④		
5	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ⑤		
6	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ⑥		
7	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）①		
8	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）②		
9	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）③		
10	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）④		
11	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑤		
12	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑥		
13	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑦		
14	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑧		
15	発表		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。発表の成果で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を中心に演技の性根を理解させる。1つの舞台を作ることにより、役の心情の変化を理解し、演じ分けられる技術を身につける。担当教員は声優や俳優、演出家として活動しているため、実務経験に基づいて声優の育成に向けた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	演技力（2年次）	小川 一樹	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
俳優の仕事は人間の生きざまを細かく分析してその人柄を表現すること。自分以外の配役の人生を的確に演じるため、作品の読み解き方を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
1年間かけてクラスで1本のミュージカル作品を創りながら、自らを鍛え、観る人に感動を与えられるような表現者を目指して学びます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介・オリエンテーション、俳優の仕事とは何か		
2	台本の読み合わせ ① 作品の分析の仕方		
3	台本の読み合わせ ② 作品を読み解く		
4	台本の読み合わせ ③ 登場人物の分析		
5	台本の読み合わせ ④ 登場人物の心情を読み解く		
6	台本の読み合わせ ⑤ 登場人物の言葉で作品が伝えたいこと		
7	セリフの考察 ①		
8	セリフの考察 ②		
9	セリフの考察 ③		
10	セリフの考察 ④		
11	登場人物としての表現方法を学ぶ ①		
12	登場人物としての表現方法を学ぶ ②		
13	登場人物の人生を追体験することで表現を深める ①		
14	登場人物の人生を追体験することで表現を深める ②		
15	台本・作品・登場人物の分析をもとに、作品を理解する		
【成績評価方法】			
講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、講義全体への理解度60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
1年間かけて1本のミュージカル作品を使用し、作品への理解を深めていく。講義が中心の授業となるが、適宜実習も交えながら授業を進める。担当教員は舞台俳優、声優として活動しており、経験を基に声優の育成に向けた授業を展開していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	演技力（2年次）	小川 一樹	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>登場人物の探求がテーマ。俳優の仕事は人間の生きざまを細かく分析してその人柄を表現すること。限りなく人間探求を続け、登場人物に命を与え舞台上で生き様を表現する事を到達目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>1本のミュージカル作品を創り、最後に発表と収録を行う。自らを鍛え、観る人に感動を与えられるような演技の出来る表現者を目指して学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	登場人物の紹介と配役の決定		
2	作品の中での登場人物として表現 ①		
3	作品の中での登場人物として表現 ②		
4	芝居相手との会話を通しての表現 ①		
5	芝居相手との会話を通しての表現 ②		
6	登場人物の心情を深く理解し表現する ①		
7	登場人物の心情を深く理解し表現する ②		
8	登場人物の心情を深く理解し表現する ③		
9	本番に向けて通し稽古 ①		
10	本番に向けて通し稽古 ②		
11	本番に向けて通し稽古 ③		
12	本番に向けて通し稽古 ④		
13	本番に向けて通し稽古 ⑤		
14	本番と収録		
15	収録した作品を見て、フィードバック		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、本番の成果60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>ミュージカル作品を題材とし、歌や踊りも交えて表現する力を養う。実習が中心の授業となるが、台本の理解を深めるために適宜講義も交えて行う。担当教員は舞台俳優、声優として活動しており、経験を基に声優の育成に向けた授業を展開していく。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ボーカル実習（2年次）	宮原 健一郎	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
特に歌唱スキルと演技力（表現力）を結び付けることを大きなテーマとし、その両方を結びつけるための基礎知識を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
音楽的基礎（音程・リズム・ハーモニー）と発声の基礎を中心に学び、ボーカリストとしてのスキルを更に向上させていく。ミュージカルナンバーの研究を通して、「歌詞を台詞として伝える」ということを中心に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、音域、音質チェック		
2	〔ボーカル基礎の確認①〕ストレッチ、ブレストレーニング、発声、楽典		
3	〔ボーカル基礎の確認②〕ストレッチ、ブレストレーニング、発声、楽典		
4	〔ボーカル基礎の確認③〕ストレッチ、ブレストレーニング、発声、楽典		
5	〔ボーカル基礎の確認④〕ストレッチ、ブレストレーニング、発声、楽典		
6	〔ボーカル基礎の確認⑤〕ストレッチ、ブレストレーニング、発声、楽典		
7	〔リズム感①〕様々なリズムについて学ぶ		
8	〔リズム感②〕様々なビートについて学ぶ		
9	〔リズム感③〕リズムを的確に捉えた、グルーブ感のある歌唱を目指す		
10	〔芝居としての歌①〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを学ぶ		
11	〔芝居としての歌②〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを学ぶ		
12	〔英語での歌唱①〕英語歌詞のディクッション		
13	〔英語での歌唱②〕英語歌詞のディクッション		
14	〔コーラスとソロ①〕コーラスとソロそれぞれの役割		
15	〔コーラスとソロ②〕コーラスとソロそれぞれの役割		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を基本とするが、習熟度を深めるために実習も適宜取り入れる。担当教員は劇団にてミュージカルの基礎を学び、様々な舞台に出演した経験があり、その経験に基づいて表現の現場ですぐに活かせる技術を伝えていく。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー 声優養成科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ボーカル実習（2年次）	宮原 健一郎	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>ボーカルIで習得した基礎を土台にして、さらにボーカリストとしての技術・表現を発展させ、それぞれの歌声の個性を十分に活かした歌唱表現に到達する。</p>			
【講義概要】			
<p>発声法への理解や音楽的知識等を深めるための講義と、歌唱実技の実習。実習は、発声練習やリズムトレーニング等基礎力を養う内容と、課題曲・自由曲歌唱の実践的な内容を同時進行していく。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、基礎トレーニング(ストレッチ、発声練習、リズムトレーニング等)		
2	基礎トレーニング、ソロ歌唱課題曲レッスン(全体)、コーラス課題曲①レッスン		
3	基礎トレーニング、ソロ歌唱課題曲レッスン(個人)、コーラス課題曲①レッスン		
4	基礎トレーニング、ソロ歌唱課題曲レッスン(個人)、コーラス課題曲①レッスン		
5	基礎トレーニング、ソロ歌唱課題曲レッスン(個人)、コーラス課題曲①レッスン		
6	基礎トレーニング、ソロ歌唱課題曲レッスン(個人)、コーラス課題曲①レッスン		
7	中間試験(ソロ歌唱課題曲・コーラス課題曲①)		
8	〔芝居としての歌①〕キャラクターの個性、心情を歌声で表現する		
9	〔芝居としての歌②〕キャラクターの個性、心情を歌声で表現する		
10	基礎トレーニング、ソロ歌唱自由曲レッスン(個人)、コーラス課題曲②レッスン		
11	基礎トレーニング、ソロ歌唱自由曲レッスン(個人)、コーラス課題曲②レッスン		
12	基礎トレーニング、ソロ歌唱自由曲レッスン(個人)、コーラス課題曲②レッスン		
13	基礎トレーニング、ソロ歌唱自由曲レッスン(個人)、コーラス課題曲②レッスン		
14	基礎トレーニング、ソロ歌唱自由曲レッスン(個人)、コーラス課題曲②レッスン		
15	期末試験(ソロ歌唱自由曲・コーラス課題曲②)		
【成績評価方法】			
<p>全体を100点満点として採点する。定期試験40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>スピード感ときめ細かさを両立した授業により、将来現場に出た時に様々なディレクションに瞬発力を持って対応出来る力を養っていく。教員はミュージカルの舞台等への多数の出演経験を持ち、個性を活かした表現力豊かな歌唱へと導くことを得意とする。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー 声優養成科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ナレーション（2年次）	布施川一寛	3単位／120時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ナレーションの役割を認識し、コミュニケーションを通して言葉の伝達とは何かを考え、体感する
 発声や滑舌、アクセントなどの基礎技術を習得・復習することで基礎レベルの底上げを図る
 音声技術の融合・応用を理解し、伝達感覚と表現力を習得する

【講義概要】

前半は日本語音声学の基礎課題に取り組むとともに、
 ナレーションの礎となる伝達意識を育むため、話者と聴者双方の意識を高めるパブリックスピーキングを行います。
 自分の言葉を適切に使うことが出来るようにする一方で、フィードバックをもらうことで他人にどう感じられるかを考えます。

回

授業計画及び学習の内容

- 1 他人を伝える他己紹介／授業説明／資料配布
- 2 声優、ナレーションとは／基礎訓練課題①
- 3 基礎訓練課題 ②
- 4 基礎訓練課題 ③
- 5 伝達とコミュニケーション①好きなものを伝えるトーク
- 6 伝達とコミュニケーション②受け取り手の感覚を確認する
- 7 伝達とコミュニケーション③代弁者としての意識
- 8 ナレーション実践①原稿課題・読む＝話す
- 9 ナレーション実践②イメージを変えることを学ぶ
- 10 ナレーション実践③様々な話し方を考える
- 11 ナレーション応用①演出する視点を持つ
- 12 ナレーション応用②プロデュースとプレゼンテーション
- 13 ナレーション課題①
- 14 ナレーション課題②
- 15 実技試験

【成績評価方法】

試験、授業態度、毎回の課題の出来栄え、理解度、出席率での総合評価

【授業の特徴・形式と教員紹介】

クラスがコミュニケーションを取り、意見を出し合いながら授業を進めます。また他人を理解し、自分の意見や視点を持つことを大切に、それぞれがフィードバックやコメントを積極的に残すような授業デザインを考えています。
 また表現方法における視野の広さを大切に、その中で生まれるパーソナリティーにアプローチします。

教員は日本語教育の専門知識とキャリアを活かし、また賞プロダクションの声優としてこれまで培ったナレーションの技術を伝え、自身の体験談も交えた親近感のある授業と振る舞いを目指します。またその上で、プロを目指す厳しさも伝えていきます。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	声優演技	水田 わさび	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>テレビ、映画、ラジオ、ゲーム、舞台などにおいて与えられた役を声優としてきちんと演じられる演技の知識を身につけることを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>声優として与えられる仕事についての知識を学ぶ。新人とベテランで求められていることが違うことを理解し、若手声優として現場で活躍できるための素地を育成する。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	声帯、声筋の仕組みの説明		
2	滑舌を取り入れつつ、自身のアピールを考察する ①		
3	滑舌を取り入れつつ、自身のアピールを考察する ②		
4	群読を通じて他の人と合わせた読み方をする ①		
5	群読を通じて他の人と合わせた読み方をする ②		
6	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ①		
7	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ②		
8	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ③		
9	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ①		
10	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ②		
11	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ③		
12	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ①		
13	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ②		
14	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ③		
15	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ④		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度50点、学習意欲20点、授業への発言30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義を中心として授業を展開するが、実技も交えながら実践的な取り組みをしていく。担当教員はプロダクションに所属する声優として活動中であり、現場での経験を活かし指導していく。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	声優演技	水田 わさび	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
テレビ、映画、ラジオ、ゲーム、舞台などにおいて与えられた役を声優としてきちんと演じられる演技力を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
声優として与えられる仕事についての必要な技術を学ぶ。新人として求められるスキルの向上や、声優としての演技力の底上げをしていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	性別、年齢、キャラクター、の演じ分けを声で表現する ①		
2	性別、年齢、キャラクター、の演じ分けを声で表現する ②		
3	聴くことに集中し、周りと合わせるこゝ、協力すること ①		
4	聴くことに集中し、周りと合わせるこゝ、協力すること ②		
5	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ①		
6	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ②		
7	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ③		
8	様々なシーンの群衆を声のみで作りに上げる ①		
9	様々なシーンの群衆を声のみで作りに上げる ②		
10	台本を暗記して動きも入れ、フリーに演じる ①		
11	台本を暗記して動きも入れ、フリーに演じる ②		
12	ゲームの音声を演じる ①		
13	ゲームの音声を演じる ②		
14	メリハリのある台本を一人で読み切る発表・意見交換 ①		
15	メリハリのある台本を一人で読み切る発表・意見交換 ②		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実技50点、学習意欲20点、授業への発言30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技を中心として授業を展開するが、適宜講義も交えながら多角的な取り組みをしていく。担当教員はプロダクションに所属する声優として活動中であり、現場での経験を活かし指導していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	アフレコ実習	荻野 晴朗	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>アニメのアフレコにおける演技は、キャラクターの画に合った“声を作ること”、台本に書かれた台詞を綺麗に“読むこと”に囚われがちである。マイク前の演技であっても、舞台上の全身を使った演技と基本は同じであって、アニメ特有の表現が要求される場合においてもそれは変わらない。それを認識し、これまでに学んできた演技の基本が、アニメのアフレコにおいても機能することを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>マイク前の演技は、舞台上の演技に比べ、環境その他の条件による制約が増える。一方、アニメのキャラクターは、時に非現実的な動きや表情をしながら、映像の中で活動している。これらのことを踏まえ、声優がアニメのキャラクターを演じるに当たって、疎かになりがちなこと、注意を払うべきことを、実際に演じてみることで学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	アフレコ体験		
2	役の立場、役者の立場 ①		
3	役の立場、役者の立場 ②		
4	役の立場、役者の立場 ③		
5	役の立場、役者の立場 ④		
6	自分の言葉で話す ①		
7	自分の言葉で話す ②		
8	自分の言葉で話す ③		
9	自分の言葉で話す ④		
10	呼吸と体 ①		
11	呼吸と体 ②		
12	呼吸と体 ③		
13	呼吸と体 ④		
14	完成していない映像を使った演技実習 ①		
15	完成していない映像を使った演技実習 ②		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。習得した技術70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>校内にある録音スタジオでの実習形式を基本とする。プロと同等の環境で演技をし、それに対して個々にアドバイスを提示する。担当教員は声優プロダクションに所属する現役の声優であり、その実務経験に基づいて声優養成に向けた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	吹き替え実習	隈本 吉成	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
吹き替え特有の表現について学び、画面の中の役者に負けない演技力を身につける。自分の思い描くイメージを映像にのせて表現できることを目標とする。			
【講義概要】			
演じる人物の性格・環境、作品の時代背景など、様々な事に目を向けながら役を研究し実践していく。マイク前の制限のある中での表現方法を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）① マイク前の表現について		
2	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）② 導入教材を使用		
3	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）③ 導入教材を使用		
4	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）④ 洋画教材1を使用		
5	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑤ 洋画教材1を使用		
6	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑥ 洋画教材1を使用		
7	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑦ 洋画教材1を使用		
8	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑧ 洋画教材1を使用		
9	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）① 洋画教材2を使用		
10	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）② 洋画教材2を使用		
11	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）③ 洋画教材2を使用		
12	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）④ 洋画教材2を使用		
13	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑤ 洋画教材2を使用		
14	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑥ 洋画教材2を使用		
15	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑦ 洋画教材2を使用		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。習得した技術70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
スタジオを使用し、収録現場に近い実習形式で行う。担当講師は長きに渡り声優として活動しており、幅広い経験を活かし声優業界の現状や現場の様子なども折に触れて伝えていきながら指導していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	オーディション実習	宮入裕次郎/大和奈波/奥村拓真	2単位／40時間

【授業の到達目標及びテーマ】

オーディションで求められている人物像を考察し、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝え、オーディション時に普段の実力を最大限発揮できることを目標に授業を展開する。

【講義概要】

オーディションで緊張したり、普段の実力が発揮できないということがないように、講義を通して人前で演技だけではなく、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝えるための表現や技術を学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	オーディションに対する準備の仕方
2	セリフ選びについての考察
3	自分を知る ①（自己分析）
4	自分を知る ②（他者分析）
5	事務所としてほしい人材についての検討
6	自分のイメージと相手に伝わり方の違いを学ぶ
7	模擬オーディションの考察 ①
8	トーク基礎 ①（声のトーン・テンポなど）
9	トーク基礎 ②（イメージの伝え方）
10	トーク基礎 ③（対象人数の違いによる話し方の差異）
11	トータルコーディネート
12	読解力 ①（原稿を読み解く）
13	読解力 ②（多角的な視野を持ち、行間を読み解く）
14	読解力 ③（文字を表現として表す）
15	模擬オーディションの考察 ②

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、検討の際などのモデルケースとして実習も適宜取り入れていく。担当教員は当校のオーディション担当者。長年、声優を志す学生のオーディションへの講義や実習、進路指導をしてきた。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	オーディション実習	宮入裕次郎/大和奈波/奥村拓真	2単位／80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

オーディションで求められている人物像を考察し、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝え、オーディション時に普段の実力を最大限発揮できることを目標に授業を展開する。

【講義概要】

オーディションで緊張したり、普段の実力が発揮できないということがないように、実習を通して人前で演技だけではなく、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝えるための表現や技術を学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	自分を伝える ①（1分間で表現）
2	自分を伝える ②（セリフで表現）
3	自分を伝える ③（言葉を使わずに表現）
4	審査員として他者を評価する
5	自分の出来ること・やりたいことの違いを学ぶ
6	模擬オーディション ①
7	トーク実践 ①（1分間で話す）
8	トーク実践 ②（即興で話す）
9	トーク実践 ③（チームでフリートーク）
10	トータルコーディネート
11	発信力 ①（自分の想いを言葉にする）
12	発信力 ②（表情や感情をコントロールする）
13	発信力 ③（言葉を正確に伝える）
14	模擬オーディション前の実践
15	模擬オーディション ②

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、検討の際などのモデルケースとして実習も適宜取り入れていく。担当教員は当校のオーディション担当者。長年、声優を志す学生のオーディションへの講義や実習、進路指導をしてきた。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	舞台演技	田村 連 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>舞台という特殊な場において、表現するための基本的な知識を習得することを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>様々な舞台作品に触れながら、役者としての成熟を促す。古今の舞台の違いにも言及し、深みのある役者に育てていく。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	舞台用語・設備について		
2	舞台の歴史		
3	舞台作品のジャンル		
4	様々な舞台作品の観劇と検討 ①		
5	様々な舞台作品の観劇と検討 ②		
6	様々な舞台作品の観劇と検討 ③		
7	様々な舞台作品の観劇と検討 ④		
8	様々な舞台作品の観劇と検討 ⑤		
9	舞台演技について ①		
10	舞台演技について ②		
11	舞台演技について ③		
12	舞台演出や舞台効果 ①		
13	舞台演出や舞台効果 ②		
14	舞台演出や舞台効果 ③		
15	舞台での役者としての生き方		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義を中心に授業を進めていく。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	舞台演技	田村 連 他	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>舞台での演技を中心に役者としての表現力を高めることを目指す。声優としてだけでなく俳優としても活躍できるための技術を学ぶ。</p>			
【講義概要】			
<p>主に台本を使用しながら、舞台のイロハを学ぶ。マイク前とは違った表現の仕方を知り、演技の幅を広げていく。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	舞台の基本について		
2	エチュード ①		
3	エチュード ②		
4	台本の読み合わせ ①		
5	台本の読み合わせ ②		
6	立ち稽古 ①		
7	立ち稽古 ②		
8	立ち稽古 ③		
9	中間発表		
10	お互いに演出をする ①		
11	お互いに演出をする ②		
12	通し稽古 ①		
13	通し稽古 ②		
14	通し稽古 ③		
15	発表		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>基本的には実習を中心に行うが、適宜講義も取り入れながら理解を深めさせる。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	アフレコ・吹替	江沢 昌子 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>自分で台詞を考え演出することで、役者だけでなくディレクターとしての多角的な視点を持つことを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>ディレクターの求めている演技を知るために、まずは相手の立場になって考えてみる。実際に演出するときの指示やアドバイスをすることにより、自分が演出をされる際にも求められていることを明確に理解できるように経験を積んでいく。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	アフレコの仕事の種類・内容の説明		
2	内面作り方を学ぶ		
3	外面だけの演技を学ぶ		
4	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ①		
5	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ②		
6	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ③		
7	キャラクターを設定し、お互いに演出する ①		
8	キャラクターを設定し、お互いに演出する ②		
9	キャラクターを設定し、お互いに演出する ③		
10	台本を作成する ①		
11	台本を作成する ②		
12	台本を作成する ③		
13	演技の切り替え・感情の切り替え ①		
14	演技の切り替え・感情の切り替え ②		
15	演技における内面と外面の融合		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率20点、授業への参加・意欲40点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>基本的には講義を中心に進行し、適宜実習も取り入れ課題の理解を深めさせる。担当教員は声優プロダクション所属の声優たちで構成され、現場での経験を基に授業を進めていく。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	アフレコ・吹替	江沢 昌子 他	5単位／200時間

【授業の到達目標及びテーマ】

実際の仕事現場で短時間に最高の演技表現が出来るよう即応力を身に付け、また声だけの仕事だからこそ、口先だけでなく全身で中身が演じられるように力のある即戦力の声優の育成を目標とする。

【講義概要】

仕事場と同じ実践に即した授業を心掛け、作品や登場人物の魅力を最大限に生かしながら、自分（演者）の個性を発揮する為には、どうしたら良いのか探っていく。

回	授業計画及び学習の内容
1	スタジオマナー・台本の読み合わせ
2	声の要素を確認し、感情によって変える
3	動きやリアクションの表現
4	提示する演技と対応する演技
5	演技の切り替え・対応の仕方
6	1R テスト
7	1R ラステス
8	1R 収録 試聴して問題点を指摘
9	2R テスト
10	2R ラステス
11	2R 収録 試聴して問題点を指摘
12	3R テスト
13	3R ラステス
14	3R 収録 試聴して問題点を指摘
15	本番

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。実習の成果60点、出席率20点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。

【授業】

基本的には実習を中心に進めていく。なるべく多くのアフレコの経験をつませていく。担当教員は声優プロダクション所属の声優たちで構成され、現場での経験を基に授業を進めていく。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ナレーター	布施川 一寛	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>発声の基礎や滑舌、アクセントなどの基礎技術を習得・復習しながら、映像・文章を読み解く力を養い、ナレーターとして様々な読みに対応できる力を身に着けることを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>自分の言葉を適切に使い、感情を相手に届けることができるようにする。様々な文章に触れることにより、その言葉の持つ意味を理解する力を養う。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本語音声学概論 ①拍と音節		
2	日本語音声学概論 ②アクセント		
3	日本語音声学概論 ③イントネーション		
4	日本語音声学概論 ④プロミネンス		
5	原稿作成 ①ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
6	原稿作成 ②ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
7	原稿作成 ③ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
8	原稿作成 ④ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
9	中間発表		
10	映像素材についての理解 ①		
11	映像素材についての理解 ②		
12	映像素材についての理解 ③		
13	原稿への理解 ①		
14	原稿への理解 ②		
15	原稿の選定		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度50点、出席率20点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>基本的には講義を中心に進めていく。担当教員は声優プロダクション所属の声優で、ナレーションの現場での必要なスキルについて実践的に授業を進めていく。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ナレーター	布施川一寛	5単位／200時間

【授業の到達目標及びテーマ】

実戦形式で映像・文章の内容を正確に相手に伝えることを大切にしていける。伝える力を磨き、相手の要望に応えられるように様々な読みに対応できる力を身に付けることを目標とする。

【講義概要】

自分の言葉を適切に使い、感情を相手に届けることができるようにする。様々な文章に触れることにより、その言葉の持つ意味を正確に表現する技術を向上させる。

回	授業計画及び学習の内容
1	ナレーション実習① … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認
2	ナレーション実習② … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認
3	ナレーション実習③ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認
4	ナレーション実習④ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認
5	ナレーション実習⑤ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認
6	ナレーションとディレクション① … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る
7	ナレーションとディレクション② … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る
8	ナレーションとディレクション③ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る
9	ナレーションとディレクション④ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る
10	ナレーションとディレクション⑤ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る
11	映像を使ったナレーション① … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む
12	映像を使ったナレーション② … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む
13	映像を使ったナレーション③ … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む
14	オーディション対策 … 収録とオーディションの違いを考える。オーディション形式での実践
15	課題原稿による試験、総評など

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。試験の成果50点、出席率20点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

基本的には実習を中心に進めていくが必要に応じて講義も交えながら進行していく。担当教員は声優プロダクション所属の声優で、ナレーションの現場での必要なスキルについて実践的に授業を展開する。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ボーカル	宮原 健一郎 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>これまで培ってきたボーカルの技術に加えて、ステージングやダンスの知識や、歌唱力と視感的なパフォーマンスの構成の仕方を習得することを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>授業の仕上げとして3～4曲の楽曲を用いて構成するショーを創ることを目指し、毎回の授業を積み重ねていきます。歌唱、ステージングの両面から指導し、観客を魅了するパフォーマンスについて研究を深めていきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、音域、音質チェック、基礎の確認、歌う時の効果的な身体の使い方も学ぶ。		
2	〔ミュージカルナンバーA①〕歌唱の考察		
3	〔ミュージカルナンバーA②〕ステージング、振付を覚える		
4	〔ミュージカルナンバーA③〕パフォーマンスの構築		
5	〔ミュージカルナンバーB①〕歌唱の考察		
6	〔ミュージカルナンバーB②〕ステージング、振付を覚える		
7	〔ミュージカルナンバーB③〕パフォーマンスの構築		
8	〔ソロとアンサンブルA①〕歌唱の考察		
9	〔ソロとアンサンブルA②〕ステージング、振付を覚える		
10	〔ソロとアンサンブルA③〕パフォーマンスの構築		
11	〔ソロとアンサンブルB①〕歌唱の考察		
12	〔ソロとアンサンブルB②〕ステージング、振付を覚える		
13	〔ソロとアンサンブルB③〕パフォーマンスの構築		
14	〔ショーを創るための準備①〕		
15	〔ショーを創るための準備②〕		
【成績評価方法】			
<p>全体を100点満点として、講義の理解度40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義を中心として行う。担当教員は劇団にてミュージカルの経験者や、アメリカへのダンス留学を経験しているダンサーなどで実践的な授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー 声優養成科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年/後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ボーカル	宮原健一郎	5単位/200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>これまでに習得してきたボーカルの技術に加え、ステージングや振付を交えて総合的に表現し、オーディエンスの目と心を惹きつける魅力的なボーカリストへ成長する。</p>			
【講義概要】			
<p>グループ歌唱実技とソロ歌唱実技の2つの実習を中心に、歌唱指導・ステージング指導の両面から授業を行っていく。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、グループ歌唱課題曲①歌唱レッスン		
2	グループ歌唱課題曲①振付・ステージングレッスン		
3	グループ歌唱課題曲①発表		
4	グループ歌唱課題曲②歌唱レッスン		
5	グループ歌唱課題曲②振付・ステージングレッスン		
6	グループ歌唱課題曲②発表		
7	グループ歌唱課題曲③歌唱レッスン		
8	グループ歌唱課題曲③振付・ステージングレッスン		
9	グループ歌唱課題曲③発表		
10	ソロ歌唱自由曲レッスン		
11	ソロ歌唱自由曲レッスン		
12	ソロ歌唱自由曲レッスン		
13	ショーを創る①		
14	ショーを創る②		
15	期末試験(発表会形式)		
【成績評価方法】			
<p>全体を100点満点として採点する。発表40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>「観客に観られる」ことを前提とし、学期末の発表会に目標を定めた実践的な授業を行っていく。ミュージカルやショー等様々な舞台への出演経験が豊富な教員が、自らの経験から得た知識や技術を指導する。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	声優ビジネス	奥村 拓真	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>就職に向けたビジネスの基礎的な能力を身に着けること。声優・俳優等を問わず、社会人として必要とされる「人前で話す力（プレゼンテーション能力）」や「コミュニケーション能力」の向上・習得を目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>社会人に必要な「ビジネススキル」とは何なのかを考え、スキルを身に着けていきます。前半ではコミュニケーションの基礎を学び、後半では企画の立て方などの実践ビジネスを学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業概要説明 自己分析		
2	コミュニケーション基礎		
3	コミュニケーションの段階		
4	コミュニケーション応用		
5	コミュニケーション総論①		
6	コミュニケーション総論②		
7	ビジネス概論		
8	企画会議とは		
9	ペルソナ設定を知る		
10	企画の深め方		
11	現代のビジネスを知る		
12	人々のニーズを知る		
13	社会人に必要なPCスキルとは		
14	ビジネス用語を学ぶ		
15	人の心を動かすプレゼンテーションとは		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義形式で行う。「ビジネスの基礎はコミュニケーションである」という観点から、前半部分は心理学などを用いたコミュニケーション論を、後半は実践的なビジネスについてを学ぶ。担当教員は学校教員経験者や、社会人研修講師経験のある者が担当し、実務に基づいた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
芸術・文化専門課程	声優養成科 昼間部（2年制）	2026年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	声優ビジネス	奥村 拓真	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>就職に向けたビジネスの基礎的な能力を身に着けること。声優・俳優等を問わず、社会人として必要とされる「人前で話す力（プレゼンテーション能力）」や「コミュニケーション能力」の向上・習得を目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>社会人に必要な「ビジネススキル」とは何なのかを考え、スキルを身に着けていきます。前半ではコミュニケーションの基礎として「人前での話し方」を学び、後半ではビジネスの実践と応用をロールプレイングや実習を通して学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業概要説明 自己分析		
2	人前で話す技術		
3	話し方基礎訓練①		
4	話し方基礎訓練②		
5	話し方基礎訓練③		
6	コミュニケーション実習 プレゼンテーション基礎①		
7	ビジネス企画実践① プレゼンテーション基礎②		
8	プレゼンテーション基礎③		
9	ロジカルスピーチ実習		
10	プレゼンテーション実習①		
11	プレゼンテーション実習②（PREP法）		
12	プレゼンテーション実習③（PREP法）		
13	社会人に必要なPCスキルを学ぶ プレゼンテーション実習④（PREP法）		
14	自分で企画を考える ビジネス用語を学ぶ		
15	考えた企画をプレゼンする（最終発表）		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実習形式で行う。実習では現実の場面を想定したロールプレイングや、スピーチ演習などを実施し、実用的な学習を取り入れる。担当教員は学校教員経験者や、社会人研修講師経験のある者が担当し、実務に基づいた授業を展開する。</p>			